

稲 WCS 早刈り技術の導入によるサイレージ の生産安定と品質向上支援

対象者 稲 WCS 生産農家、コントラクター組織、酪農家

【普及活動のねらい】

当管内では、平成 21 年度から 4 農家（組織）により約 9 ha で稲 WCS の生産供給が開始され、令和 2 年度には、8 農家（組織）で約 37ha に拡大しています。これまで管内では、稲 WCS 専用の晩生品種である「たちすずか」を中心に栽培していましたが、作付割合が「たちすずか」に偏重しており、作期の偏りにより刈り遅れが生じ、サイレージの品質低下を招いていました。また、「たちすずか」は、稲縞葉枯病への抵抗性が低いことから、多発生した場合の生産安定に大きな不安を抱えていました。

そこで、当課では、「たちすずか」と同熟期で稲縞葉枯病抵抗性を有する「つきすずか」への転換とともに、収穫時期の分散のため、早刈り技術を導入することにより、サイレージの安定生産と品質向上を図ることを目的として支援を行いました。

【普及活動の内容】

早刈りとは、普通、黄熟期前後に収穫するところを早期に落水し、乳～糊熟期頃に収穫する収穫分散技術です。この技術の地域適応性や収量性、サイレージの品質を検討し、技術確立を図るための実証ほを設置しました。その調査結果をもとに生育状況を栽培農家と共有し、病虫害発生状況に応じた防除管理や生育に応じた追肥の施用等、技術確立に向けた栽培管理について支援しました。

また、収穫期においては、収穫適期を判定するための水分含量測定を実施し、水分含量に応じた収穫時期の判断や早期落水の実施等、早刈りの実施に向けた栽培管理指導を行いました。



「つきすずか」の生育調査

【普及活動の成果】

生育に応じた栽培管理や適期収穫が実施されたことから、早刈りの収量は、「つきすずか」の標準収穫期刈りと同等となり、当管内において、早刈りによる収穫分散技術の地域適応性は十分にあると考えられました。今後、サイレージの給与時期に成分分析を実施し、早期収穫による品質への影響等について評価検討し、その結果を踏まえ、稲 WCS の安定生産・品質向上に向けて、地域全体での最適化された作付収穫体系についてさらに検討を進めていきます。



収穫調製作業